

春日部福音自由教会 2020年11月29日 11:00 中央会堂礼拝（同時配信）

聖書 新約聖書 マタイ 1章 16節～25節

説教 「神が私たちとともに」 小野信一師

I.揺れる船の上で

おはようございます。2020年の待降節を迎えました。待降節は降誕節・降誕祭を待つ季節であります。【アドベント】というふうにも言われます。来られるまで、来られるそのことを待ち望む季節です。ろうそくに一本ずつ火を灯し、待ち望む日々を過ごします。昨日、各会堂にお渡ししましたけれども、このようにして降誕祭の招待状が今年もできました。昨日は丘の上会堂で、イルミネーションの点灯式を行ないました。そこでともに祈りをしたわけですが、三つのことをお祈りしたいということでお話をしました。

一つは、そのイルミネーション・この灯火が、主イエスの光を映す器となりますように、ということ。

二つ目は、この会堂が、主イエスの光を映す器となりますように。

そして三つめは、主につながるひとりひとりが、主イエスの光を映す器となることができますように、という祈りです。

2020年11月が終わろうとしています。残り1ヶ月になろうとしています。皆さんにとって、どんな一年だったでしょうか。どんなことがあったでしょう。身近で起こったできごと、自分の健康生活、仕事のこと、家族のこと、また、職場や学校、地域、そして、この日本の国、世界の国々で起こった様々なできごと。2020年、世界が揺れたと言って良いと思います。地球が揺れるかのような、揺り動かされるかのような。私たちは生き残れるのか？と恐れたり、悩んだりもしたと思います。また、今も、人類は助け合えるのだろうか？という問いが頭を巡ります。国と国は、人と人が協力できるのか？果たしてワクチンができた時に、人類はワクチンを分け合うことができるのでしょうか？それともやはり、取り合いをして、お金を持った国・力を持った武力を持った人たちが先に取るというだけのことになるのでしょうか？そんな私たちの揺れ動く心と揺れ動く世界の中に、神が共におられるということを覚えたいと思います。

今日読んでいただいた御言葉の中で特に23節の『インマヌエル』という言葉があります。『神が私たちとともにおられる』という言葉です。この降誕祭のご案内に渡辺禎雄先生の版画作品を使わせていただくようになり、10年が過ぎました。最初の年、2009年だったと思いますけれども、ある一つの小さな版画作品を手に入れることができました。それは、湖の嵐の中で船が揺れている姿です。そして、その海は、波が青海波で描かれています。日本の海と波の文様で、そしてそこに、まっすぐではなくて歪ん

で揺れている波が描かれていました。揺れる船の上にイエス様が一緒におられます。一緒にいるんですけれども、眠っておられました。眠っておられましたが、船の上に一緒におられます。私たちの揺れる心と、イエス様がともにおられます。そしてこの地球が揺れる時、イエス様がともにおられます。そして、未来を思い描こうとして未来が見えずに未来を待ち望んで呻いている私たちと、イエス様がともにおられます。主がともに、主がともに、主がともにおられる、そのことを繰り返し心に刻みましょう。そして、私たちも主とともに、イエス様と一緒にいましょう。あなたと一緒にいたいと言ってくださる神様と、私たちも一緒にいたいと思います。

先週 11 月 22 日は、オンラインでの聖書講演会と信徒の学びをしました。「神のかたち、人の使命」～神の代理人としての人の使命について、それが失われたこと、その回復、また完成について学ばせていただきました。島先先生を、オンラインではありますけどもお迎えできたことを感謝しています。「非常に良い世界」を神様が造られた。その創造から始まって次に墮落。神の代理人として、王として地上を治めるべき人間が【暴君】となってしまった。そこから回復・救いを通して行き、「非常に良い世界」の完成までの、広い大きな絵巻のようなもの・大きな絵を見せていただく思いで聞かせていただきました。皆さんはどのように聞かれたでしょうか。どう響いたでしょうか。そして、どう生きようと考えたでしょうか。また聞かせていただければと思います。

今日は、神様のその大きな大きなご計画・ビッグプランとでも言ったら良いでしょうか、広い大きなご計画を心に留め、思い描きながら、待降節の礼拝を捧げていきたいと思います。「神が私たちとともにおられる」～インマヌエル～。この揺れる世界に、揺れる私たちとともに神がおられる。この言葉を知り、味わい、経験する待降節となることを願います。

Ⅱ. つながる系図

マタイの福音書 1 章は系図から始まります。何が見えるでしょうか。今日読んでいただいたのはこの系図の全部ではなく、その終わりのところ 16 節からでした。系図がここに書いてあります。誰々の子、そして誰々が誰々を生み、と、ずっと父、子、父、子という風につながっている。ここから何が見えるでしょうか。ここに神のご計画・神のご意志が見えてきます。時があります。段階があります。そしてキリストであるイエスが現れた。マタイはそのように福音書に書き、私たちに伝えていきます。

みなさん、系図を見てどういう風に思われるでしょうか。カタカナの名前がずらずらずら続いている、誰だかよくわからない人の名前のように思うかもしれません。どうでしょう。でも、もしもこれらの名前がですね、自分の先祖の名前だったらどうでしょうか。自分の父親、そのまた父親、そのまた父親の名前がもしこういうふう書いて

あったら、会ったことがない人かもしれませんが、自分に繋がってるんだなっていうふうに思うかもしれません。

ここには14代、14代、14代、42代に亘る系図が書かれています。なかなかそんなふうに系図がわかる人は少ないと思うんですけども、マリアの夫となるヨセフがヤコブから生まれました。そして『キリストと呼ばれるイエスはこのマリアからお生まれになった』と16節に書いてあります。つながっているのです。命がつながっています。そしてここに、神のご意志・神の御心（御心という言葉直訳すると【意志】と言って良いと思いますが）・神のご計画がこのように多くの時の中で流れている、つながっている、そのつながりの中でヨセフが生まれ、その妻マリアからイエスが生まれました。地上に生きたイエス様がどんな方だったか、何をされたのか、何を言ったのか、その歩みに目を注ぎ続けること、それ以上に大切なことはないでしょう。イエス様を見続けましょう。イエス様がどんな方だったか知り続けましょう。それが私たちの人生と人格の羅針盤となります。

そして旧約聖書も読みましょう。ここにはアブラハムから始まってダビデが出てきます。14代ダビデ、それからバビロン捕囚まで14代、そこからキリストまで14代の時代のことが書いてあります。私たちは福音書を読んで、イエス様の姿を見て、また今度旧約聖書を読んで、それからまた新約聖書、手紙・書簡などを読み、また旧約聖書を読み、そしてまた福音書を読んで、イエス様の姿を見つめていく、そのようにして少しずつ聖書を読み続け、少しずつ教えていただきたいと思えます。

聖書の歴史は、私たちの人生・私たちの家族の歴史もそうですが、一世代一世代少しずつ進みます。少しずつしか進みません。そういう中でイエス様が現れた。イエス様を見続けましょう。そして、家族の中で、近所や地域の中で、職場・学校で、「イエス様を知り続けている人」としてイエス様のように行動し、人と接するように自分を変えていく。自分を御霊の助けによって変えていただき続けるのです。

インマヌエル～神が私たちとともにおられる～。今いろんなことが不確かです。先のことでも不確かです。この不確かな中で、主がともにおられます。先が見えない中で先を見ておられる方—アドナイイルエ—の先を見ておられる方がともにおられます。アブラハムからイエス様の誕生まで42代という風に書いてあるわけですけども～約2000年ですね～約2000年の時、そして、イエス様が現れて地上で生活し、最後に十字架で死なれ、復活し、昇天されたその後の時代、今度は聖霊が降り、聖霊の時代・教会の時代になって時が過ぎました。そしてそれから2000年が経ったんですね。神のご計画はなります。一世代一世代、イエス様の後からもここまでがつなげて世界に広がり、繋がってきています。

今日は特に、この 23 節の『神が私たちとともにおられる』という言葉に注目して、旧約聖書と新約聖書からそのことに思いを向けたいと思います。

Ⅲ. 預言が指し示す未来

旧約聖書にもたくさんの約束があります。「神が人とともに住むようになる」というたくさんの約束があります。

今日はその中で特に一つ開いて、ともに読みたいと思っています。既に聖書交読で読みましたが、エレミヤ書 31 章～34 章は王国時代の終わりです。すなわち先ほどの系図で言えば、マタイ 1 章 11 節に「バビロン捕囚のころ、ヨシヤがエコンヤとその兄弟たちを生んだ。」ヨシヤ王の後、エホアハズ、エホヤキム、エホヤキン、ゼデキヤというふうになって王国が終わっていきます。その王国の終わりの時代がエレミヤの時代です。何十年にもわたって神の言葉を伝え続け、しかし、民は聞かずに立ち帰らずに王国は滅びていく、そのような時代です。

滅びの預言・滅びの警告、そしてそれが実際に起こるという事の中に、このエレミヤ書 31 章があります。31 章 33、34 節を読みたいのですが、その前に 31 節ですね。31 章 31 節「見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはイスラエルの家、及びユダの家と新しい契約を結ぶ。」滅びの中で、滅亡の中で、神様は「新しい契約」と約束されました。そして 33 節「わたしが結ぶ契約はこうである。わたしは彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。」

このことは何度も何度も繰り返された約束です。滅び苦しみ、痛み、破れの中で再建が約束されています。回復・帰還・救いが、そして新しい契約が約束されています。31 章 4 節には「わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される」という「再び」という約束があります。紀元前 586 年あるいは 587 年に南ユダ王国が滅び、新バビロニア帝国によって捕囚となるという状況がまさに迫っている中で、神は裁きと滅びを語ると同時に、回復・救い・新しい世界を約束されました。

神様が約束されたこの再建と回復の新しい契約、それがどのように成就するのかということについて、この新しい契約はおそらく三つの段階を踏んで成就するといつてよいだろうと思います。もしかしたらもっと多いかもしれませんが、大きく捉えた時に 預言が指し示すのは 1 回の未来、一つの未来だけではないことが多いですね。少し先の未来、もっと先の未来、さらに先の未来を一つの預言が指し示すということがあります。今日のこの新しい契約・約束について言うならば、三つのことが挙げられると思います。

一つは捕囚からの解放。エルサレムの再建という数十年後の未来ですね。

二つめはメシアの到来による救いの時です。つまりイエス様が生まれるその時のことです。神の決定的なご介入がこの地上に起こったということですね。エレミヤの時代から見れば、約 600 年後のことですね。

そしてさらにもう一つ、三つめの未来は、今私たちがいるこの 2020 年よりももっと先になって起こる未来に起こることです。この世界の今の時代が終わって、新しい天と地が来る、その時です。再び神が徹底的に、もっと徹底的にご介入されて、この世界に入って来られる時が来るのです。そして人が神とともに住むようになります。

三つの未来のことを申し上げました。

もう一度言うと、一つめは、「もう 1 回バビロンに 70 年が満ちる頃」という預言の通りに、紀元前 6 世紀 5 世紀に実現したわけです。

そして二つ目の未来は紀元元年と言いますか、今から 2020 数年前にイエス様が地上に誕生することによって実現した。イエス様は地上で生き、エルサレムで十字架で死に、贖いの御業を完成されました。そして地上に蘇り、40 日を過ごして天に昇って、聖霊が送られて新しく教会が誕生します。それから 1990 年ほどの間、この地球上で人から人へ福音が伝えられてきました。信じた人が新しく生まれて、その群れが教会となり、地球上のあらゆる場所に広がっています。今年 2020 年の待降節です。

三つめの未来は、メシアの再臨ということになります。この時にインマヌエル～神が私たちとともにおられる～ということがもっとはっきりと実現します。イエス様がこの地上に来られた時に「インマヌエル」という世界、「神が私たちとともに」という世界が始まったわけですね。成就し始めたのです。今もイエス様はともにいてくださる。しかしまだ来ていない未来もある。それはメシアの、キリストの再臨です。新天新地完成の時です。これは新約聖書の一番最後のところをちょっと開いて読みたいと思います。ヨハネの黙示録 21 章 1 節と 2 節と 3 節ですね。新しい天と新しい地という全く新しい世界がそこに現れる。ヨハネは言いました。1 節「また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。」前にあった天、前にあった地は過ぎ去った。そして新しい天と新しい地が来るのを見た、というのです。この「以前の天と、以前の地」って、今私たちがいるこの地のことでしょうか。それが過ぎ去っていく。この今ある状態、今あるこの時代、この世代は終わっていきます。過ぎ去り新しくなる。より素晴らしい、より完全な 新しい天、新しい地が来る。そして 2 節「新しいエルサレムが花嫁のように整えられて、天から降ってくるのを見た」。3 節「見よ。神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」そして、神が私たちの目から涙を拭いとってくださり、もはや死がなくなる世界が来る、というのです。「わたしは彼の神となり、彼は

わたしの子となる。神がともに住んでくださる」という約束が貫かれています。旧約聖書にもその約束がありました。新約聖書イエス様の時代にそれが成就し始めました。今もそれは続いています。そして、ここから先の未来にそれが実現することになるということです。神様は約束を実行されるお方です。必ず神様が語られた通りになります。神は約束通りに、ご計画通りにメシヤを送ってくださいました。それが私たちが記念するクリスマス～降誕祭です。ご自分のひとり子を送ってくださったというだけでなく、三位一体の神ご自身が天から地に降りて来られて人となり、不完全な世界に不完全な人間の一人・一員になってくださった。なんと驚くべきことだろうかと思います。そうしてここから先、神は約束通り、ご計画通り再び来られます。

主イエスキリストが再び来られ治めてくださる。世界を新しくして完成してくださいませ。不完全な世界を新しく造り変えて完全にしてくださいませのです。神様は約束を必ず成し遂げるお方です。そうですよね。そのことを信じますか？「わたしの約束を信じるか？」と問いかけられているのです。

IV. 神様が約束してくださっていることは？

皆さんにちょっと質問をしてみたいと思うんですけども、皆さんにとって『神様の約束』って何でしょうか。『神様が約束してくださっていること』って何でしょう。

「私はこれを神様が約束してくださっていると信じてます」と言えること、思っていることって何でしょうか。三つの質問したいと思うんですね。

一つは「あなたへの神の約束は何でしょうか」。ひとりひとりが「私に神様が約束してくださってることって、これだよな」って。約束してくださったことも、実現したこともあるかもしれませんが。すぐにそうなることもあるかもしれない。長い時間がかかることがあるかもしれない。生涯を通してその実現を見るとか、私たちが世を去った後に実現することもあるかもしれません。いずれにしても「神様があなたに約束してくださってること」って何でしょうか？それが一つ。

二つめは「教会への神様の約束は何でしょうか」。教会って何でしょう？それはこの日曜日に一緒に同じ場所に集まっている、いわゆるローカルチャーチ、地域教会。

「春日部福音自由教会」って名前がついた教会のような教会もありますし、日本の諸教会、世界の諸教会、そして時代を超えてつながっている目に見えない真の教会。それも教会です。「教会への神様の約束」は何だと皆さんは信じているのでしょうか。それが二つめです。

三つめは「世界への神様の約束は何でしょう」。神様はこの世界をどう見られ、この世界に対して何と言われ、この世界に対して何をされるのでしょうか。「世界への神

様の約束はこれだ、と私は信じてます」と言えるとすれば、それはどんなことでしょうか。

神様の約束、あるいは神様のご意志や御心というのがもうすでに示されているものがいろいろあります。そういう中で私たちはこの大きな大きな神様のご計画の中に置かれている。【ビッグプラン】といってもいいかもしれません。神様の大きなご計画の中に置かれている、その中で、私たちは今ここにいるわけですね。2020年にこの地球上に生きている、この日本に生きている、今ここで私たちは何をしましょうか。何をしたら良いのでしょうか。また何ができるのか、それぞれ私たちは自分で考え、自分で判断し、自分で行動し、その責任を取っていく者になりたいと思います。

神様は約束を実行する方です。それを信じるか、信頼するかということが問われています。ローマ人への手紙4章21節にはこのような言葉があります。少し翻訳が変わりましたが、今の聖書ではこうなっています。「神には約束したことを実行する力があると確信していました」。これはアブラハムのことを書いています。神に信頼した信仰の父アブラハムのこと。神には約束したことを実行する力があると確信しました。あなたへの神の約束、世界への神の約束、それを神様は実行する力があります。今ここにいる私たちは何を信じているのでしょうか。そして、何をしていたら良いのでしょうか。

地球全体のために、地球の環境のためにとか、感染症や医学のためにとか、ワクチンを分け合うためにとか、食料をより適切に分配するとか、いろいろなことがあるだろうと思います。身近な人とどう関わるかもそうでしょう。大きく言えば、地球全体のため、人類全体のために、また国や地域、また教会全体のために、今いる人たちだけではなくて、次の世代、次の次の世代の人たちのために、私たちはこの時代に何をしたら良いのでしょうか。祈り、考え、ふさわしい判断と行動をさせていただきたいと思います。神様は「わたしにはそれを実行する力がある。あなたはそれを信じるか」と問いかけ、信じるように「わたしに信頼しなさい」と励ましてくださいます。最後に、神様は「人とともに住む」と約束し、人とともに住むことを願うその約束を果たす神です。そしてずっとそうなることを願ってくださる。そしてやがてその約束を果たしてくださるのです。

VI. 捜す神

ここでも最後に三つのことを話したいと思います。

神様は「あなたはどこにいるのか」と捜す神です。今日ここに礼拝堂にこうやって集まっています。また同時配信で礼拝に参加している人もいます。こうやって神様のもとに来ている人に「あなたはどこにいるのか」と神様が捜しておられる。見つけられて、私たちはもう来ているのかもしれませんが、ここにいない人がいます。教会に来ていない

人、来ることがない人。多くの人たちがいる。そういう人間たちを「あなたはどこにいるのか」と神様は捜しておられます。

二つめ。神様はひとりひとりが答えるのを待っておられる神です。「私はここにおります」「神様、私はここにおります」。聖書の中でそのように答えていた人がいますね。例えばサムエルっていう人、そうでした。神様は呼びかけます。そして「私はここにおります」と人間から答えが返ってくるのを待っておられます。私たちも神様にお答えしましょう。「神様、ご覧ください。私はここにおります。ここにいる私を見てください。この私を知ってください。この恐れる心、揺れる心、この私を知ってください」そう言いたいと思うのです。

最後に三つめに、この神は待つだけでなく捜しに来た神です。この神様は上っていく神様というよりは、降りてきた神様です。クリスマス～降誕祭～はそのことの記念です。「人の子は失われた人を捜して救うために来たのです。」「見よ、わたしは捜すために来た」とイエス様が言われます。イエス様は私たちを、そしてまだ神のもとに来ていない多くの人たちを捜すために来られたのです。主イエスの受肉を覚えて、既に一度この地上に来られたというその事実を覚えて、また再び来られることを覚えて、待ち望みます。「あなたはどこにいるのか」。主が、迷う私たち人間たちを、今日も捜してください。

黙祷しましょう。

お祈りいたします。

父よ、御子をお送りくださりありがとうございます。

御子イエスよ、降りてきてくださりありがとうございます。

私はここにおります。私たちはここにおります。

捜しに来てくださった主よ、どうぞ私たちをご覧ください。

そして今、地球上に生きる人間たちをご覧ください。

あなたがともに住むために降りてきてくださったことを感謝します。

再び来られる日を待ち望みます。

私たち不完全な人間を完成してください。

この世界を完全なものとして完成して下さいますように待ち望みます。

主イエスキリストのみ名によってお祈りします。 アーメン